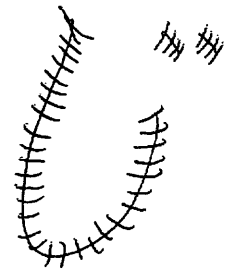
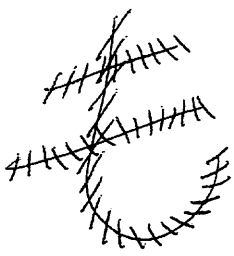


98年度 積雪期 報告書



世界は広い!!

信州大学山岳会



★個人山行のページ

2~18

明屋山P6南壁左岩稜、八海山

3

甲斐駒ヶ岳・鋸岳

4

甲斐駒ヶ岳・鋸岳

5

ハク岳縦走

6

ハク岳アイスクライミング

8

幕岩

9

成人式山行

10

ハク岳横岳西壁

11

白馬岳～日本海

12~14

常念岳

15

槍ヶ岳

16~17

中止になった山行

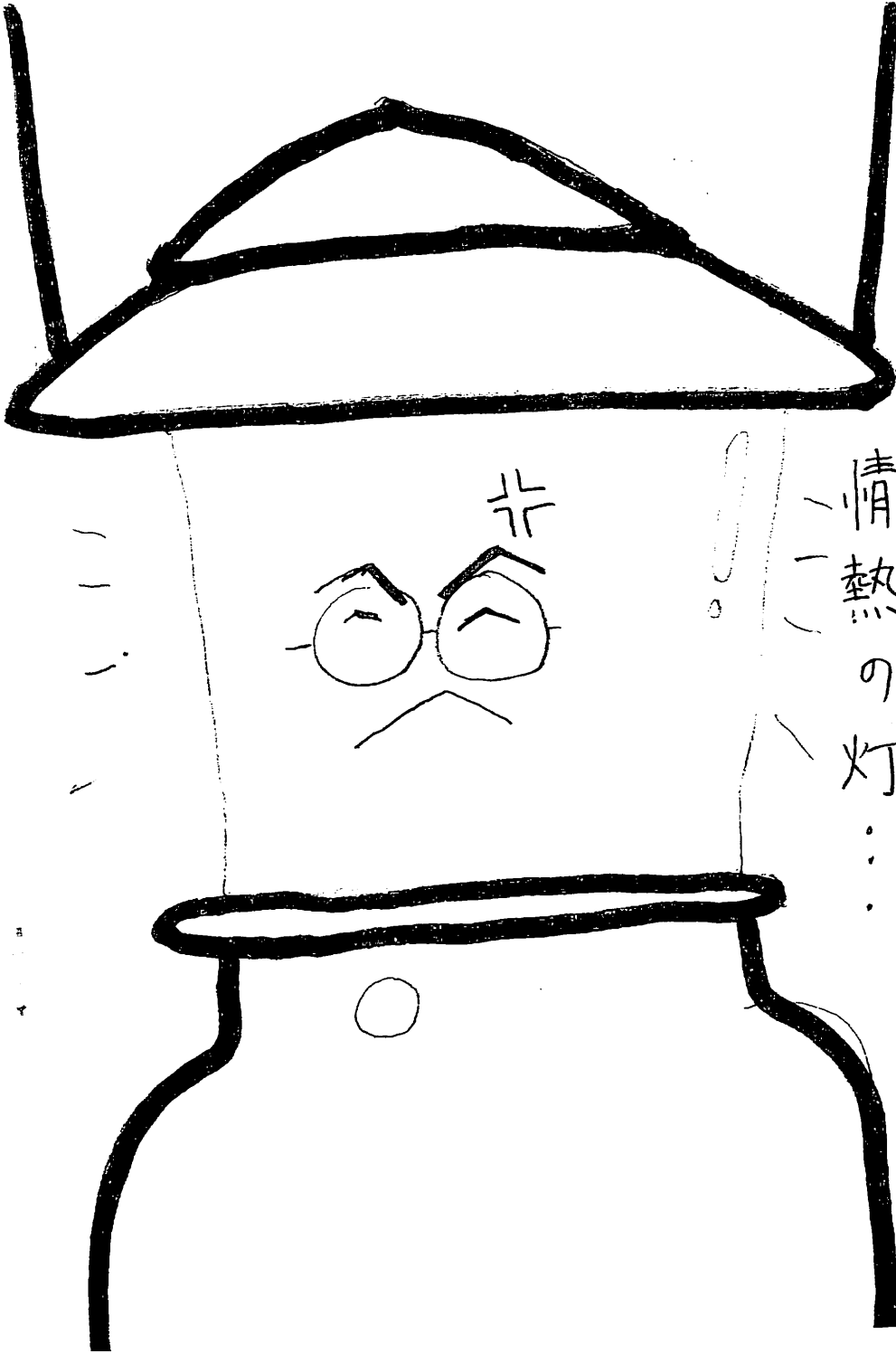
18

★個人の一年間の総括

19~34

アルファ米

個人山行



明星山 P6 南壁 左岩稜

10月29日. △花谷. 大木. 日高. 横山丁

5:00 松本集合 ○

8:00

5

左岩稜登山 (110-71-2 花谷. 横山 大木. 日高) ○

13:40

14:20 西面下降開始 ○

15:20 馬車場着 ○

登山中はとても暑かった。下木は明星に計画を出して6月目(?)に(7月?)に登ったそうだ。ちなみに花谷は雨に決まるとはない。岩はやはり滑りやすかった。今後はフリー要素の強いマニフェストやフリースピリッツ等を登るべきである。

ハ海山

11/5.6

△花谷. 岸本. 岡本

11/5

7:00

長野出発 ○

9:30

ハ海山のふもと山口集落着 ○

10:25

出発 ○

10:45

屏風道取付 ● =

11:45

清滝 (4合目) ○

13:55

千本木曾小屋 ○

11/6

5:00

起床 ○

6:20

千本檜小屋 出発

空荷でハツ峰を偵察。

7:50

大日岳

8:55

五竜岳

11:45

登山口着

ハ海山は戸隠のような険しい山である。冬期は想像できないくらい寒いのではないだろうか。これを冬登りにして足並みをそろえ、た110-71-011入るべきである。ハツ峰はラニアウトロからゴンドラに乗ることにしよう。それにしてもすごい山だった。

甲斐駒ヶ岳～鋸岳

11月14日～15日

Ⅰ 花谷 (4) 嶋 (3) 大木 (2) 深沢 (2)
横山 ジョボ (1) 横山 177 (1) 松寿 (1)

13日 松本 = 葦崎 駅寝

14日 葦崎 = 駒ヶ岳神社

- 6:10 駒ヶ岳神社
- 6:50 一本
- 7:55 笹ノ平下
- 8:55 一本
- 10:00 黒戸山下 <五合目小屋
- 10:55 一本
- 12:15 プラクツに (かなり疲れている)
- 1:25 あと1Pだ (バテ気味に...)
- 2:30 甲斐駒ヶ岳山頂 <ケースイ×1
- 4:40 6合目石室

7/1シーで駒ヶ岳神社だ。前日の駅寝のため 全員寝不足。七合目あたりは半分眠った状態で歩いている。今日の山行は冬の偵察というわけだが、山行の主謀者は岸本なので、我々は完全に個人山行のペースペース気分だった。いや、それにしてはペースペースで2400m アップはつらかった。雪は山頂付近のみに全く問題なし。とはいえ、高枝の恩師に“南アルプスに登るなら先づは黒戸尾根だよ、あとから入るのがいいんだよ、南アルプスは...”と

言われたのを覚えている。みんなバテテ南アルプス登らなくなった、ちやうよ...先生。

- 15日 4:30 起床
- 5:45 出発
- 6:45 中ノ川乗越手前のピーク
- 8:10 第2高点
- 10:20 鋸岳山頂
- 11:45 角兵衛沢
- 12:50 一本
- 14:05 戸台川
- 15:40 戸台 紅葉は結構美しい

第2高点から望む鋸岳はわずか500m先なのに下つたり上つたりですごく遠かった。まき道を使ったわけだが、落石は恐い、かなりヤバイ道だった。角兵衛沢はすごく歩まなく、神経を使っただけ。どうして山はこんな疲れさせるんだろう。

(文責 大木 信介)

南ア・甲斐駒・鋸岳 11/21 ~ 23 (2+1)

CLはうた'り'けりすけ, 岡本伸也, 岸本俊朗

11/21 (SAT)

(前泊) 作宇駒岳神社 5:45^① ~ 9:45^② 五合目 ~ 10:45 7合目
 ~ 13:15 甲斐駒 ~ 14:15^③ 六合五室 TS

風が強々本峰は通過。下りに1ポイント難しい所あり。

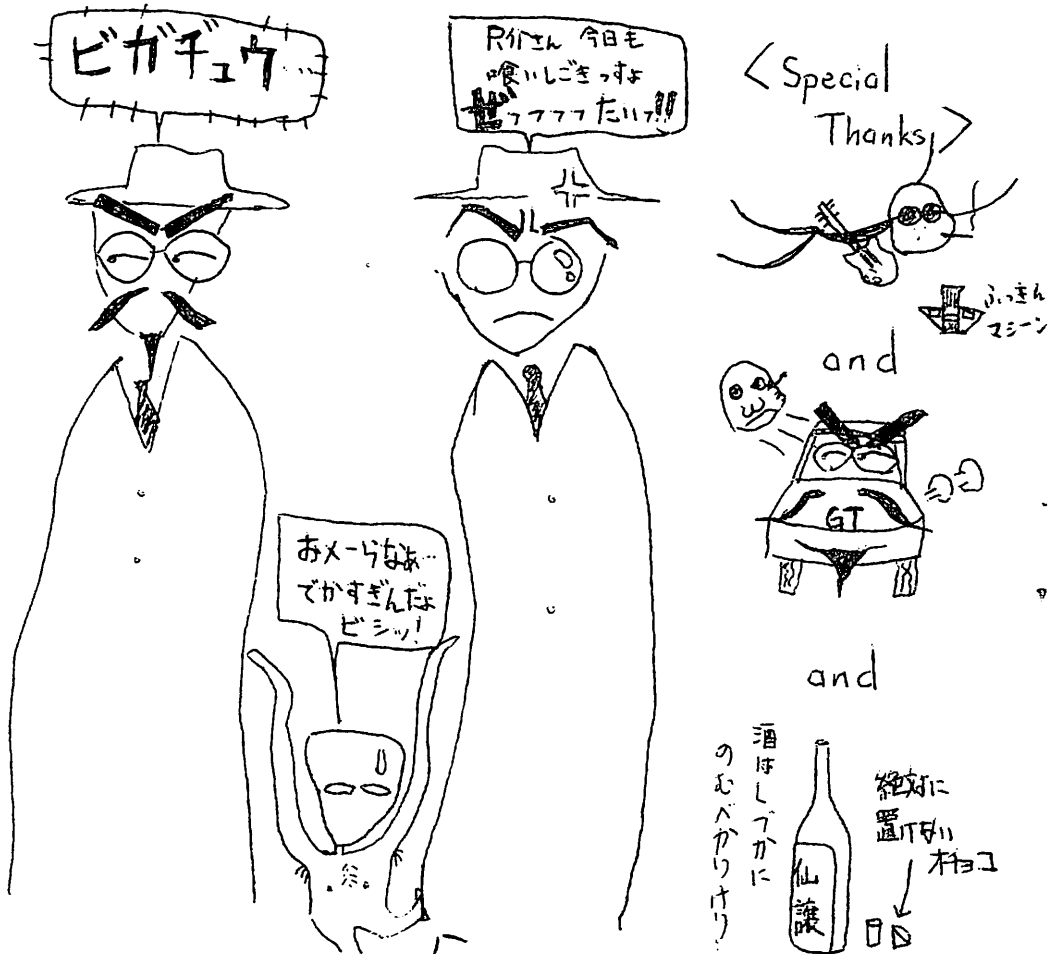
11/22 (SUN)

起430 TS 6:15^① ~ 8:00^② 中, 越 ~ 11:20 第一高 ~ 11:50^③ 角ハエ沢コル
 ~ 14:00 戸台川原 ~ 15:30 船ゲト

③時又

全て縦線通して行く。小ギャップはもうでもないが大ギャップは
 かなりシビヤだろ(冬は)。た'けど' まき道ではトレスしたと言いかた
 しない。かなり楽しい縦走になるでしょう。リベンジ!

記) ほうだ



ハケ岳

11月21日 ~ 23日

山 大木(2), 野田(3) 梶原(1) 横山シロホ(1) 松崎(1) 横山ノック(1)

- 21日 9:20 ちてしな 牧場
- 10:00 ゴキウ 終了点
- 11:05 天狗の露地 250m
- 11:40 ちてしな 山荘
- ピストン 12:10 蓼科山
- 12:30 ちてしな 山荘
- 13:40 大河原峠
- 14:40 二子池
- 15:20 亀甲池 T.S

若尾先生にちてしな 牧場お送ってあげ。
 今回の計画は北ハツと南ハツを
 つなげ、全山縦走を達成するという
 ものだったが、天候のため美濃戸に
 下山した。元気に送り出してくれた
 若尾先生を再びハケ岳お呼びだし、
 迎えに来ていただいた。感謝 感謝。
 北ハツは初めての人ばかりだったので、
 ただの縦走ではあなが、見知らぬ山
 の頂を踏むのはいいもんだ。

- 22日 4:30 起床
- 6:25 出発
- 7:15 横岳 登り
- 8:45 横岳
- 9:25 ミツ岳
- 10:00 ほかい山
- 11:20 麦草峠
- 12:30 高見岩小屋
- 13:50 中山峠
- 15:00 東天狗岳
- 16:15 夏沢峠 近く T.S

6人でテント1張に寝る。寝返りを打
 と、二度と同じ体勢に戻れない狭さだっ
 た。朝食はマカポラ、一年生が好きらしい。
 ルートは北ハツらしく、なだらかでまじく
 ハイキングコースだ。“冬山は初めて”と一見
 分かるオバちゃん40人くらいならんで
 いたりしてさすがにまあ。そういうオバちゃん
 に限って、ノースフェイスを着たりしているんだ。
 “ザノースサイド”を使用している僕としては
 誠にうらやましい。ちなみに“ザノースサイド”は
 スーパーで買った(3000円) 124キ ダブルヤク。

- 23日 4:00 起床
- 5:55 出発
- 7:15 硫黄小屋
- 8:30 峰ノ松目分岐
- 9:30 赤岳 鉢泉
- 10:55 美濃戸
- 11:45 美濃戸口

(注意) ザノースフェイス → 北壁 の意
 ザノースサイド → 北側 の意

硫黄小屋まで行くと、強風のため撤退。
 全山縦走できずお断りしたのは残念であ
 った、でも冬を前に一年生に冬山を体験
 させることができてよかった。

(文責 林 信介)

(11ページ 大同心雲後ルートのつづき)

① 急なフェイスカット
普通のAI. 見た目よりも難い。ルート図通りに支点があるが、5m行くと2P目のヒート直したヒート点がある。ボルト3つお座れる。

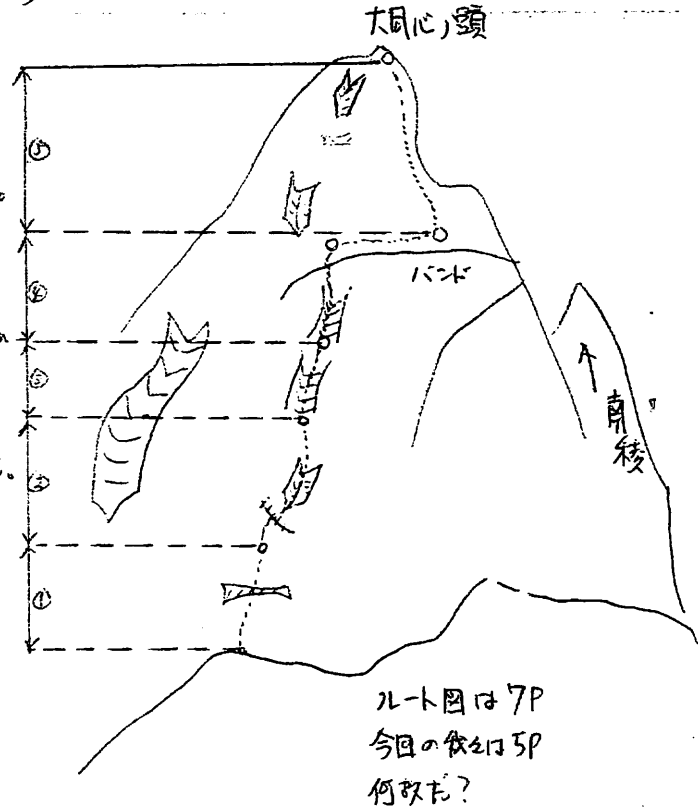
② フェイス
最初からアジ。7-8mほど登ると左に2-3mくらいトラバース。かなり怖い。トラバースが直上までフェイス。ここでもアジを使うが、最後はフリー。ランアウトはすくなく怖い。度胸未だ。

③ フェイス凹角
ルート図では3P目は35mとなっていたが、25m地点にボルト2つとハーグンの支点がありここ切った。凹角はなかなか楽しい。バイルも使える。ちおといやらしいがおもしろい。

④ 凹角 核中部 IV A0
3P目のヒート点から右曲がりの凹角が見える。これが核心の凹角。支点ももろく、ランションは禁物。凹角を振り、数メートル行くとバースにきて、しっかりした支点がある。ここから左はドームのダイレクトルート、右がトラバースとなる。3P目のヒート点から20m弱だった。ルート図と違いは差がでていた。我々の計算だと、バースまで3P目に行けることになる。ルート図との誤差は、ルート図自体の距離の誤りと、我々が下部2Pを伸ばしたことが重なった結果だと思う。このPは雲後ルートの核中部で、超怖い。冷汗ダラダラ、涙目ボロボロ。

⑤ IV A1 アジ
最終ピッチ。高度感あり。アジのかりかえ。ポイントはここをヒートするに力が残っているか。下のA1の2PとIV A0でかなり疲れる。アジは相当練習してゆべし。

⑥ ルート図はスレている場合もあるので、信頼はできているかな。



12/6 ~ 7 11.0 岳アイスクライミング

12/6 花谷, 野田, 大木, 岸本, 岡本

5:00 BOX 集合
7:45 美濃 産
9:20 赤岳 鉱泉



14:30 ジョウゴ沢でアイスクライミング (大木, 岸本, 岡本は下山)

12/7 花谷, 野田

5:00 起床
6:40 赤岳 鉱泉 B.C 出発
7:30 ~ 10:30 裏洞の氷にせ"登山" (1) ~ (2)
11:40 B.C 着

ジョウゴ沢は氷結状態があまり良くなく, F2の登山は怖かった。花谷は初氷で落ちてビビった。2年生, 3年生も初めて初アイスで, ダウリアックスの素張りしてを臆感していた。裏洞の氷にせ"はルート取りをしっかりとらしての簡単はルテでみ子。大洞心, 小洞心への経路でさらにお白しい登山とみ子は"3"。今日はツルハで登ったが, 野田, 花谷は初氷着でみ子にOPのやり方。問題なく登山とみ子は"3"。

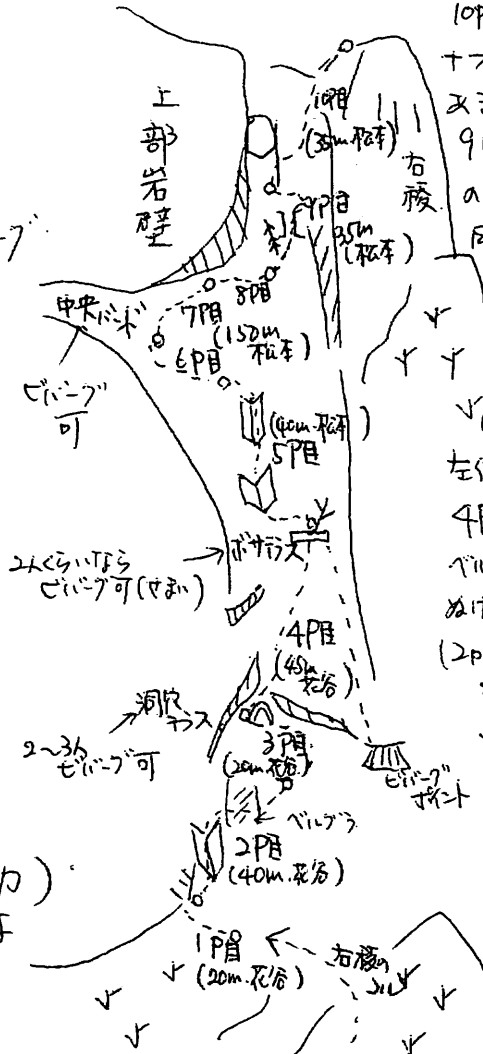


12月12日~13日

唐沢岳幕岩大凹角ルート

△ 中嶋岳志(0B), 松本佐知子(ホワイト-短野), 花谷

- 12/12 6:00 七倉集合
 6:40 " 出発
 7:30 高瀬ダム下
 10:15 大町の宿
 11:00 大凹角ル+取付
 16:10 本P登り後(1P懸垂ピロフ)
- 12/13 4:30 起床
 6:30 ピロフピロフ出発
 12:15 右稜の頭
 16:20 高瀬ダム下
 17:15 七倉



10P. 右のストーンFから人工7m
 +フリー. ジョントロペリに付. 200
 又利雪はよい.
 9P (100m) 雪はついていない
 ので夏利登りやすい. IL+ED
 同P.
 6~8P (100m) 中央ピロフ.
 どうぞOK
 5P (100m) 右サテラスから
 ↓ピロフ凹角登る. 大凹角
 左側を通った方がよい.
 4P (100m) 中央ピロフ.
 1Pのグレン張, 1Pスラフ人工で
 ぬけが, フリーに移ると3か思い
 (2P所) サテラスからピロフ登る
 3P (100m) 右からサテラスに
 登る. ジョントロペリに取ると.
 2P (100m) 上にいけばよく
 1P. バルグサテラスから思い.
 1P: 夏の取付まで. 雪面から
 大凹角の入口組取付(100m)
 アカーチ
 大町の宿 → 取付間
 IL+EDはよく雪崩の
 注意.

<感想>

初冬壁はあつ(3)からT=1P
 からリードを(T)ので7P利(激的)
 Tだった. ベルグを割リながら
 人工をやたり. 落ちるが落ちない
 かを乗り越えたりする事やして
 も新鮮だった. 冬壁に必要
 なのは ①体力 ②精神力(気力)
 ③技術である. 特に気力は
 度胸といふ方がいい。

1月15~17日

唐沢岳幕岩雪峰ルート

降雪直後のため. 危険なため中止した. 24日(2回)目だ...
 (メンバー: 中嶋岳志, 花谷)

中ア・北部

1999 1月16~17日

～成人式をコタツで祝う山行～

1/16(土) (伊那前泊) 桂小場 630 ~ 1140 将棋頭
~ 1150[◎]西駒山荘 コタツ・サト

1/17(日) コタツサト 900 ~ 1120 桂小場

樽駒を予定していたが天気があんまりよくなくて、
あっさりあきらめて宴会モードに入る。みんなでコタツ
ツ 囲んで夜はスキヤキパーティー。山はこうではな
くは! 外は雪山、内はBOX(またはシンガ荘)の霧囲気。

今夜のディナーの招待者

はらたしはらけ[Ⓢ](4), 木本・B・信介(2), 岡本伸也(2)
岸本俊朗(2), 深沢遊(2), 横山・J・勝丘(4)
横山・N・輝生(1), 松峯林太郎(1), 梶原恵[Ⓢ](1)
(スペシャルゲスト) 松沢さん(OG)

Ⓢ...ゲロマーク

※尚 成人のまぬけは写真 岳人 4月号 66p 参照!!



冬はコタツとミカン
と酒.....

南ハク岳西面 小同にクワック、大同に雲稜ルート

1月23日、24日

△ 花谷泰広 (4) 大木 信介 (2)

1/22 美濃戸山荘

1/23. 5:00 起床
 6:30 出発
 8:15 赤岳 鉱泉 BC
 9:10 : 出発
 10:45 小同にクワック 取付
 11:10 登攀開始
 12:20 : 終了
 12:50 横岳
 (13:40 硫黄岳)
 14:30 B.C 着

美濃戸山荘から歩きはじめ 大同に稜を登りつめ、岩壁登攀し、縦走して帰るのはけっこう疲れる。天気が良く、石にも雪がついていなかったので、あまり抜けることができたが、悪天候だったし、かなりヤバイ。小同にクワックのビレイ点は風の通り道なので、かなり寒くなる。明日の雲稜に備えての小同にクワックだが、すく快道な登りができた。ちおとしはほがたが、僕は満足した。今度は、吹雪の時に登ってみたい。

登攀 1P 大木
 2P 花谷
 3P 大木

登攀は 2P目が核にぞ、3P目は一応アザレンにたどり。横岳に直登するのは、パーティーの力量と天候次第。ザイルが、欲しいとぞた。

1/24 4:30 起床
 5:30 出発
 6:50 取付
 7:20 登攀開始
 11:50 トム頭
 12:10 : 出発
 13:15 硫黄岳下り
 13:45 BC 赤岳 鉱泉着
 15:30 B.C 発
 17:00 美濃戸山荘

1P	IV	A1	花谷	30m
2P	IV	A1	花谷	25m
3P	III		大木	25m
4P	IV	A0	大木	15m
5P	III	K7A2	花谷	30m
6P	IV	A1	花谷	30m

北アルプス 白馬岳 ~ 親不知⁹⁹ 3/1 ~ 3/6

LA 大木(3) 原田(5) 岡本(3) 横山(勝)(2) 松寄(2)

◎ 3月1日

- 5:25 BOX
- 7:00 梅池
- 8:30 梅森
- 12:50 白馬大池 TS

いよいよ出発する。ついにオレも
Uボートのように雪の中を滑るの
かま~ なんかいろんな期待に胸を
膨らませ、スキーのリフトに上る。
スキーヤーに向かって“お、パイク”
なんかよわからんことを叫び、我々は

林道を歩き始める。雪が増えはじめてわかんをつける。またか
こ氷が 最初で最後になるとは、誰が予想してたんか、いや
できない(反語)。だが、本当にこの 2P だけだった。
栗駒岳の斜面は降雪直後はかなり危険。雪崩を警戒し
つは足になる。

◎ 3月2日

一度出発するものの天気が予想より早く崩れだしたので
引き返し 前日と同じ場所にてテントを張る。ついでに
ブロックを作る。

沈殿!!

◎ 3月3日 風強し

- 4:00 起床
- 6:10 出発
- 8:50 三国境
- 9:25 白馬岳
- 9:50 三国境
- 11:50 雪倉岳避難小屋

また(春山)といふものの、難しい
もので、予定の3日分を歩いて
しまった。白馬のくせに天気も
よく、サクサクと進めた。何れも
雪だ。白馬はもう、これでもか
というくらい雪があり、まあ、もう
やたらと毎日 思うはず

だったのだが、なんか風がやたらと強い山域でもおそろしく、
雪倉岳にいたっては、雪と土が半々くらいに見えた。雪が
みんな ぶっ飛んでいるようだ。今年は雪が少ないのか? 春だから
か? それとも ふうものなのか? よわからんが、どんどん進んで
しまった。

避難小屋の扉は新しくなっていたが、雪が中にたまり、
どうしても開けることができない!! みんな色々やって見たが、

やはり どうしても 開かな。としたり 亮介さんが 窓を、これに
 カギのかかっている 窓を開けた。これには かなり おどろいた。
 企業秘密の スパシャルテクニック があるらしい。
 亮介さんのおかげで 無事(?) 小屋に入るこができた。落ちつくこが
 できた。これにしては 外の 風の音は すまじかった。やはり
 風の強い 領域 なのだろうか?

○ 3月4日

- 4:15 起床
- 6:20 出発
- 7:00 雪倉岳
- 11:40 朝日岳
- 14:15 黒岩山
- 15:30 文子の池 T.S

この区間は ラッセルが 激しく、実動が3日
 かかる予定だった。全行程の 核心部
 となるはずの、黒岩平付近も、なにか
 クラストして、カツカツとアイゼンで
 歩いた。リボートをやるはずだった
 のに。雪の中 泳ぎたかたよ。

3月だからな、仕方ないか、とあきら

め、カツカツと 夏山並のペースで せせと歩いてしよう。天気がいいので
 悪い気はしない。黒岩平で テントを張ろうと思ったが、3/5は
 どうも 最悪の天気にならうなので ルートミス のないう 稜線に
 いることにした。これは ナイ判断だと 後々 わかった。

黒岩山に登りつめ、犬ヶ岳方面を見渡した時、僕は茫然とした。
 開いた口が ふさがらんかった。雪の量が 半端でない。切れている
 はずの 稜線は すっか丸くなり、10m以上の 雪庇が 大々まで
 遠々と 延び、所々 きれつが 走り、ヤバイ臭いを アンパンと 発
 していた。「核心は 氷からだ」僕は ツバをのみ込む。

時間も押し迫り、せせと テントを 張れそうな 場所をみつける。ゴック
 を築き、悪天候に 備える。備えは 憂いなし!

今日は 疲れた。よく歩いた。疲れた体に、酒が 無抵抗に
 しみゆく... 心地良い一時。

○ 3月5日

- 4:00 起床
- 6:00 出発
- 8:15 梅池山荘

梅池山荘は 雪の中に 没していた。
 10m以上の 雪かな? 天気が 崩れる
 前にかんはって 掘る。掘って掘って
 掘りまくる。

小屋に無事入城。我々は どの様 没殿様、白鳥山お行ける
 かな とも思ったが、犬ヶ岳から 見方をみると、全く気の抜
 けな 様子だった。犬ヶ岳の付近は 右側は雪庇、左側も
 亀裂の 走った 雪崩斜面、真ん中 歩くしかない、という 具合
 だ。(結局 この状態は 最後まで 続く。) 西の空も かなりヤバイ
 感じに 染まり 始めたので、やはり 梅海山荘で 没とする。

て、今日の 新2年生 2人は かなり グスい。だまって 2人
 を 見ていると 非常におかしい。なんか、二人で 下ネタ 漫才 擬
 を 永遠と やっているのだ。だから 没殿様にも なんだか おもしろ
 げな 面がある。

この日は“春一番” という やつが 吹き、下界でも 相当なもの
 だったらしい。山は 台風 のようだった。小屋の中なので 風が
 つか が テン だったと 50% くらいの 確率で つぶされたと思う。
 そんな 風が 吹いた 3月5日 でした。

◎ 3月6日

6:00 起床

8:00 出発

12:30 白鳥山

18:10 国道

白鳥山お 緊張の 続く 稜線。山頂か
 ら 振り返って 望む 白馬方面が とても
 印象的 だった。と、い 何よりも 海...
 ち だらだら 下りる 感じ と思ったが、最後まで
 テルト ファインディングに 苦しみ、大変 だった。

国道に 降りつく 頃には 真っ暗 になっており、ハラハラ した けど
 国道から 海の 音を きき、海の “におい” に 感動 した。
 日本海 の 荒波は まさしく 『ザッパ〜ン』 の 世界、男の
 世界 だな と ポンヤリ 考えながら 親不知 方面を 歩く。
 海岸の 公園に テントを 張り、お余った 食糧を 盛大
 に 成功を 祝い、僕らは ゆっくりと 眠りに つく。疲れた...

この計画は 実動 8、予備 7、計 15日 という もので あった
 が 結局 4+2 の 6日間 で 抜けて しまった。しかし、下山後
 の 天気を 考えたり、道中の 判断を 今 思うと、本当に 一歩
 間違え たら 死ぬ 目に あっていた と思う。運も 良かった。
 学ぶ ことも 多く、中身の 濃い 縦走が できた ことに 満足 して
 いる。

Bon+

常念岳東尾根 '99 3/16 ~ 20 (3+2)

△ 林山(1) 山内(1) 原田(4) 岡本(2)

◎ 3月16日

6:25 取付 start
9:35 東尾根と合流
12:50 T.S 森林限界前
<Fix隊 林・岡本>
12:55 T.S 発
15:00 第二岩峰 30m fix
16:30 T.S 着

松本といは常念!! そんなおれをこめて
今回の計画を立てた。たが登っても
しーない、い、探せばこの尾根が
ある。岩峰とかいろいろあるおれも
知らなかった。取付を事前に岡本と下見し、
サクッと登り始める。“わかんない”
ということにして車に置いていったが、すぐ
後悔した。股おれもくるラッセルにも

なつた)した。

東尾根に登りつめると傾斜はなくなり、グラグラとラッセル打ちけに
なる。ほんとはグラグラしたラッセルだった。

岡本とボボでFix隊として出勤する。しかし、これが果た何の意味も
なかった。せっかくラッセルしたのに次の日は全部クラストした。第二
岩峰に一応Fixは張ったがこれも何の意味もなかった。おれも、
厳冬期になると、他の岩峰もザイルが必要になると思われる。

◎ 17日

5:18 起床 もちろ寝坊!
6:50 B.C 発
8:20 前常念岳
9:00 常念岳
10:30 B.C 着
11:00 撤収・出発
13:30 取付

一時間半の寝坊。こんな盛大
に寝過ぎたのははじめてだ。
亮介と、岡本が第三岩峰の
Fix隊として先登したが、雪も
なく、直登せずにおく。降雪直後
は雪崩斜面にたると思う。
久々の常念山頂にみんな感動
する。穂高連峰も美しく、やはり

格の違いを感じさせられる。橋ヶ岳はもちろん、立山連峰も見えて
いる。嗚呼常念岳万歳。

B.Cに戻り、ちゅちゅ下山打。穂高温泉郷に行き、汗を流す。
こういう山行は楽しい。気の合った仲間とのんびり登る。
山もいろいろも。

BOND

北アルプス 南岳西尾根 ~ 檜ヶ岳 '99 3/28 ~ 3/30

△ 大木 (3) 川井 (4) 妻谷 (4) 中島 (4) 梶原 (2)

◎ 3月28日

8:10 新穂高温泉 start
13:10 檜平 T.S

今日の縦走は 26日から入山し、南岳西尾根を登り表銀座コース経由で燕岳に行き予定

だったが、天候不順のため入山を延ばし、檜から大喰岳西尾根で下山するという具合に日和ってしまった。今思うと情けない。

◎ 3月29日

4:00 起床
5:40 出発
6:30 テラ状岩壁前
10:00 マッパ箱
10:40 南岳小屋
13:35 檜肩の小屋

南岳西尾根のポイントは2つ、テラ状岩壁と“マッパ箱”。その間の雪稜もなかなかシブイ。しかし、季節的にも登りやすく、マッパ箱も多少ゲイルをFixする程度ですんだ。厳冬期で、天候も悪く

これは難易度もかなり上がるはずである。これはどんなルートでも一緒だが... とにかく、春休み中山に登って自分にとっては何ともない雪稜だった。秋冬に登っていた。秋、眼前に迫る鏡谷や穂高連峰がとて美しく魅了された。あれを冬に登っていたとも思ったが、登る奴はアホだなとも思った。情けない。

◎ 3月30日

3:30 起床
8:00 再び起床
《大喰岳西尾根で下山》
11:35 檜平
15:10 新穂高温泉

何とも馬鹿馬鹿しい話ではあるが正直に書かねばなるまい。我々の5名中、3名が重度の雪盲になってしまった。夜中涙ボロボロ、痛くてたまらん状態だった。おまじ小石を

目ん玉の中に入れておいた。3:30に起床し、檜ヶ岳山頂を目指す予定だったが、これどころではなかった。原因は、間の抜けた話だが、サングラスを着用しなかったからである。背後から太陽光線を浴びていたので、これほど

実感せず、ジワリジワリとやられてはたゆんでくる。本当に
情けな。限りだが、雪盲の恐さを改めて実感した。

。春の日差しは強いのだ。

もう一参考...

。紫外線は雲をつきぬけてくる

だから春山には多少曇ったくらいでもサングラスは着用すべし。

中島氏はどこにも故障がなく(何故か?)一人だけピンピンして。
梶原も軽めの雪盲ですんでいたのて2人で山頂ピストにも
考えたが、中島氏も昨日の稜線に軽い凍瘡になっていた
ので無理するのはやめた。梶原も冬期の槍ヶ岳に登ら
せてやりたかったのて、今日の日はとても残念だった。

我々は山頂を目前にして情けな。敗退を喫した。僕の目
はかなり重症で仕方なくつぼりながら下りた。前を中島氏に
歩いてもらい、その足音についていた。時々距離を計る
ために目を開けるが、それだけでかなりの激痛だ。なんといつて
ろうそくの光もまぶしくてたまらんからな。

新穂高温泉に着くころ、やっと普通に目を開けられるようになった。

目を開けられるようになったと思おう、今度は中島氏の車の
タイヤが何着かにパンクされているではないか。茫然とした。
悪質なものに2個もやられている。おたく腹の立つ話だ。
川井氏の車は無事だったのてスパタイヤ2個とリフケで何
とか帰松。七転八倒の3日間だった。

反省することも多く、とても濃い山行だった。ハア〜情けな。

こじんばかにされた槍縦走でした。

BOND

中止になった山行

～計画書の墓場～

○10月

・甲斐駒・赤石沢奥壁 L 妻谷 悪天

・谷川岳 - 倉沢 L リョウマ村 ☺

○11月

・白馬から日本海 L リョウマ村

偵察とこの本番には
リョウマ村の冬(冬刈)

○2月 南ハツ L 川井

雨

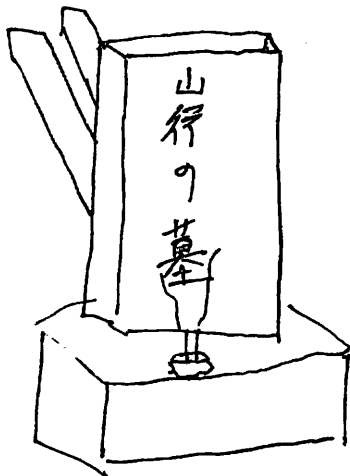
○3月

・南ハツ西面 L . . .

雨

・奥穂 L 川井

X = リョウマ村



個人の一年間の 総括



今年度の総括および4年間を振り返って

はらだりょうすけ

3年生で会を引っぱっていかなければならなかった去年に比べて、今年
は余裕をもってやってこれた。いろいろと至らないところがあって、随分
みんなに世話をかけたが、これといった事故もなく、自分で立案した冬合
宿も成功し、リーダーとしてまずまずの1年だったと思う。

冬合宿が成功したときに感じた喜びは、言葉では表し切れないものがあっ
た。山自体よりも山岳会を、どこに登るかよりも誰と登るかを大切にしな
ければ、そう思って1年やってきた。それは、過去3年間の自分なりの反
省からきたものだ。

この4年間、数々の失敗を残し、その度にいろんな人に迷惑をかけてき
たけど、この4年をその年の日記から言葉をかりてまとめてみた。

1年生

山に行けば人に会える

下界で仮面をっている人も

頂に立つと素顔が出る (以下略)

全ては人に出会うため

友人に出会うため

師に出会うため

そして、自分という他人に出会うため

95・12・15 下宿

2年生

山岳会がどうあるべきかとか、2年がどうあるべきかとか、考えるのは
もうやめよう。今はただ一つでも多く山に登ること。1日でも多く山にい
ること。

96・7・13 バットレスBC

今日は失言をした。■■■■郎さんに失礼なことを言ってしまった。こちら
に分があるとはいえ、あれはなかったな。毎日Fix隊で頑張ってくれて
たわけだし。おおいに反省すべき。明日はラッセルの日。オレこのみの1
日になりそう。

96・12・27 霞沢J.P

3年生

人に対してやさしくなれない
人に対して厳しくなれない
どうしても自分に微笑みかけてくる人に
厳しい態度をとることができない
その弱さが人を傷つけあるときは、
人を危険にさらしているのに

97・6・1 新人合宿BC

人がいつかは死んでしまうということは、物心がついたころからわかってることなのに、いまだに人の死に戸惑う、自分の死が怖くて仕方ない。

97・12・5 下宿

4年生

朝起きたらふとんの中にいる。この単純な幸福にひたっている縦走成功の実感はまだ湧かない。人に優しくしてもらった喜びが上まわっている。見ず知らずの人間にここまで親切にできることに比して、山登りなど自己満足と自己顕示欲の骨頂という気がしてくる。己を恥じよ。

98・3・8 井川温泉観水荘

明日からの合宿必ず無事成功させてみせる。おれが今までやってきたこと、今できること、そしてこれから。そこには何かがある。必ずある。

98・12・23 下宿

と言うわけで、日記を読み返してみても盛りだくさんの4年間だったということを感じさせられた。中には読み返すのも恥ずかしい部分もあり、なんだこいつは、と他人のように思うところもあった。次の4年間も充実しますように・・・。

<総括>

語りた^い事は冬合宿の反省と感想に長々と書いてしまったので、特にここと
言^{って}書きた^い事は無く^なってしま^{った}。だからもっと個人的な振り返りを
やりた^いと思う。

まず、今年度私はサブリーダーだった^が、ほ^ろり言^{って}サブリーダーだった[。]
教育実習等の授業が多く、私事をや^らずのけ^のに精一杯だった[。]
亮介君、申し訳ありませんでした。こんな一年で山岳会の4年間を終
えるとは思^{って}も^らな^かった^が、4年^にな^らず、^てか^ら冬壁ヤアスクライミング
を始めた^し、今年^は海外遠征もやる。モチベーションはMAXだ[。]
T=T。現役^の山岳会^での登山にこ^のけ^がり^てく^らい^ない。今年^{から}は少し
会^を離^れて^はスタンスで活動^したい[。]

今年^は（¹⁹年度^は）目標としていろいろ挙げ^てた^が、フリークライミングは
5.11b（^かい^かな^から^なし）アイスもそ^のと^に行^って^おけ^らな^かった[。]個人の
目標はあまり達成^させ^なか^らな^かった[。]努力不足^だ。

来^年以降はただ楽しくや^られ^ばいい^{と思}う[。]で^ずに^は他の会^のう^まい
人^に色^を教^えて^おら^ない^{たい}。ま^とう^まい^へた^にか^から^ず、^気の^合た
人^としか登^らな^い。ストレスがたま^り、^気を使^う。ということで今年^の
テーマは“楽しくや^らせ^て”で、特に目標は作^らな^い。やりた^いよう^にせ^て。
現役^の活動^はは口^を出^さな^い。し^らみ^の白^いだ[。]
また、頑^張、^て下^{さい}。いままで“ありがとう”。

花谷 泰広

3年生

。この1年間は速かった。もう終わり?、て感じ。しかしまあそれなりに収穫の多い年だったように思う。

意識的に山岳会とは(今までと比べて)少し距離を置いてみた。その分、手にできなかった物とか失ってしまったものもある。でも、違った角度から会の事が自分自身を見る事ができて、自分としては満足している。

1年、365日、同じテンションで同じ気持ちでいられる訳は無い。ましてや、4年間なんて考えると気が遠くなってしまう。大切なのは、その時、その時の自分の気持ちとうまくつき合っていく事。当り前の事だけじゃなく、そんな事を考えた1年だった。

亮介さん、花谷さんにはほんとうにお疲れ様でしたと言いたい。上級生不足の中、よくこの个性的な人間の集まる集団をまとめてきたなと思う。この2人の人と山に行ったり、話しをしたりすると、自分の認識不足、経馬不足、力不足をよく感じる。オレはオレにしかたないけど、頭の中にもこの2人の事、そして、2年前にリーダーだった山内さんの事を常に入れているように思う。

これから4年生、最上級生になる。一応会としては一番上の人間になる訳だが、その事について思う事を少し。

自分の基本姿勢は地に足を付けて、どこまで伸びる事ができるか、という事。これは4年になっても変わらない。ただ、4月から入ってくる1年生が3年、4年になつた時、事故を引き起こす様な雰囲気作りはしたくない。大切なのはバランス感覚、常に謙虚な気持ちも忘れない。しめる所はしめて、楽しく山に登れたらいいなと思う。

川井 泰七

この一年の総括 中島 辰哉

(一年の総括)

は、きり言うところの一年間は、会に対しても山に対しても積極性に欠けていた。毎回の合宿に対するモチベーション、準備、トレーニングなどが不十分で、しかも合宿毎の反省は同じことばかり、
 積極性のなさ、アグレッシブのなさ、これはばかりだった。

実際問題、山登りということ自体に義務感がつきまとっていた。しかし、それだけ悶々としながらも続けて、しかも合宿に全て参加したのは、日常生活からの逃避だったり、何よりもやはり気持ちの切り換え、山行後、気が楽になったりしたからである。心の寄り所的なものを求めてもいたからである。

この一年で、山の経験的側面はあまり進歩がなかったが、何か得たものもあるだろう。今はまだわからない。

(ここからのこと)

現在、非常に鬱滞だが、色々なことに興味がある。色々やりたいこともある。できる限り、それぞれに手を付けた方がいいが、中途半端にはしたくない。そのために選択肢も狭まるかもしれない。

できるだけ山も他のことも両方並べていきたいと思っている。

しかし、惰性でやることはしたくない。気持ちの切り換えや、決断を、しっかりしたい。

山岳会としては(最)上級生であることを意識して、メリハリをつけ、楽しくやっていきたい。

98年度の総括と99年度の目標

人間思ったように進むたじろこのは相違なくはない限り難しい
ということに毎年気がしてきて、で(今年はずごいぞい)

その1. 5月に3冊を痛めた。→7月に専念という目標がけやくも崩れ去る

その2. 10月にヘルニア(首)が判明。2ヶ月程廃人生活を送る。転

その3 具体的にやるべき長くなるのでやめると僕はそのことかあると問題を解決す

わる。クセがあるが今年のをそれが特に顕著にした。

等2. 今年の思(劇)に(今年死?)運はなかった。

思(劇)にいたこともないわけじゃない。

その1 作家の報工となる(俳句の2、興味のたむくま本を読むこと)出来た(環境ホルモン、
日本軍の戦敗にまつての研究、ベトナム戦争、犯罪、心理学等)。あつただけだがみんな
それだけ僕にいろんなことを教えてくれた。

あと金々山と関係ないのが話と山(は)

とにいくつかがなやまされてたこと全部わかったのだ。今年の目標はずらしたのに

このことなることは思っていたからた。

で、精進というは卒業 授業 道学 就職 とおもしろいこと(い)つたりすばり

年の目標は、技術的進歩して、4年という学年であるので人間的に成長

(た)い、ということである。明確なモリサシがないので難しいが、どうどうこれに

正面切ってイトム学年になった。たたりあし ちのせつ×>7にたたりあし

る年になるのである。

よくわからん文だが以上 昨年の総括と今年の目標でした。



98年度 総括

表谷 水郷

際限なく、自分の勝手さ、思いやりの無さを自立させた
年であったと思う。今になって悔まれる。前期は様々な
常態が起ると分かっていながら、好き勝手に山行に
行ったり、新人有宿にほとんど参加せずにマゼミテに行つた
りするなど、自分の身勝手さに歯止めがかけられなかった。
後期になると授業が杜々しくなり、前期の穴埋めがで
きないどころか、やるべきことも放棄していたように感じる。
こうして山岳会に対して何もできなかつたと歯がゆい思いを
持って現在に至る。しかし、その反省というべき歯がゆさは今
年度の目標（会のもつてもあるし、自分自身のもつてもある）を達成
することによって解消していきたい。コミュニケーションをとるとい
うのがそれだ。コミュニケーションをもってすれば、己ごと会に対
する関わり、思いやりが生まれてくると思うし、最低条件でも
あると感じる。もちろん自分のやりたいこともやらしてもら
う。またマゼミテにも行きたいし、マローツルにも行きたいと思
っている。しかし、それに対する見返りといつてはほんたうに、借り
といったものをしっかりと返さなければならない。時間もたんとまりと
あるし、人一倍、会に対する思いを持ちたいと思っているのだから、
後輩たい思いは絶対したくない。あまり98年度の総括にム
たつていないけど、後悔ばかりしてもしかたかたないでしょ。
今年度の抱負をもって98年度の総括にしたい。

<今年度総括>

大木 信介

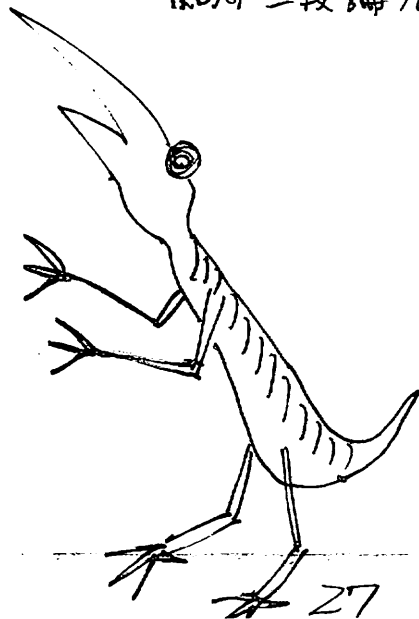
まあもう2年も終わりが近い。いろいろまたなま、とほほしみ思う。本当に2年も終わりが近い。今年度の総括だが、反省・感想・目標の三段論法の進め方もいいが、どうもそれは具合がよくない。俺は何でも全カでやってきましたと思うし、行ける山行は全て参加した。本ヤン経験が少な〜など細かい反省はいくらでもあがるが、一年を通じた反省は特になく思っちゃたりする。こゝろ総括は“アグレッシブさに欠けた”とか“指示が足りない”“受身がちになってる”などの反省をよくきくけど、俺はでしゃばりだからそんな反省はない。

とにかく2年という学年は大き〜ものだった。上も多く、下もいたのて確実に実力をつけるには最高の状態だったと思う。亮介や達は上もいなく、下も多く大変だったし、川井や達はや不自由な立場だったことを考えても、我々は何んとも思わなかった環境だった。この経験を生かして、さらなる山岳会の向上を目指したい。

来年は休学する。休学して山に登り、己れを鍛えこみたいと思っている。皆に行かせてもらう海外遠征なので、休学して得た力を戻ってきたときに会でフルに使わせてもらいたいと思う。僕は南アルプス全山ほど自分の力でおこなった山行はなかったと思っている。そんな風に一生の思い出と経験になる山行を後輩にも味わってもらいたい。帰ってきたら北アルプス全山をやる。必ず俺はやる。それが終わったら俺も行くぞ。

常に目標はある。これからみんなと一緒にがんばっていきたい。

結局三段論法のボロボロ



今年度の感想

岡本伸也

2年になった。山を始めて2年目が始まった。
 新たに昇ってくる山を登って行くだけ
 だった山に連れていく慣れにエフ。しかし上級生
 が多いことや、1年の少なさ、自分自身のため
 おこもりしなかつた。自分の弱さを感じた。
 弱さといえは、自分がまだいこおかりてあ
 ることもわかった。立岩アセンションでスゴイ
 ない。トレーニングもすればそれもなく
 ぶくできるかもしれないがこれもやる気がし
 ない。もともと自ら何かやるというより、何
 かについて行く性格なのだ。

来年度の抱負

これからは山以外に別のことほしや
 たいと思う。といって山にまったく行かない
 わけてはほしい。今までは山にかんしては
 自分自身のことしか考えていなかった。だから
 来年度は海にこことたし、自分のこと
 まったく無視して、他人の行動や考え
 を自分なりに考えていきたい。

wouth m



野村 佑香

SANVO

総括

今年の始めはヒガの故障に脳まされ最悪のスタートだった。本千ニ
に行きたくて、計画には乗せてもさうえたも夏の合宿があのよう形で終
ようにならなかつたのは残念だ。夏今更なるから、行っただが、それなりの
ってしまつた。ヒガの故障で山に行かた。岩はやれ痛感した。不安定さに絶えず頭を悩まされ
、ヒガの故障で山に行かた。岩はやれ痛感した。不安定さに絶えず頭を悩まされ
成果が出たのはよかった。岩はやれ痛感した。不安定さに絶えず頭を悩まされ
れはるぐに登れなくなる。それ自信の不安定さに絶えず頭を悩まされ
冬は、経験の乏しさからくる自信の不安定さに絶えず頭を悩まされ
た。しかし冷静になって考へるとまだ自分は山に登り始めて2年もた
っていい。変な自信を持つより、山に登るべしと思う。
った。山に登らな余計なことを考へるより、山に登るべしと思う。

2年 岸本

抱負

来年の春からのガネツニユの遠征に最近までは行くつもりだったが
諸々の個人的都合めら、やめることに決めた。このことについて色々
考へたのを機会に向こう1~2年先の取り組みについて具体的に考へ
るようになった。以下にその内容を記す。

- ・ 遠征は自分で計画。自律(立)的な山も。
- ・ 春は雪積にたくさん行く。
- ・ 温かくなったら夏までは本千チャニを中心に計画を出す。
- ・ フリーのグレードを上げる。目標は11c.d。クラックモちゃんとする。
- ・ 単位を取る。
- ・ 無事故。

今年度総括・来年度の抱負

日高弘次

今年は、廃人生活を送りました。山にも行かず、大学にも行かず、バイトもせず、友達も作らず、という、死人だ魚の目をしてたであらう(他人が見たら)一年だった。

その廃人生活も一年も送れば飽きてくる。何かしよう。少なくともこれから金を稼がなければ、と思う二のこ。バイトを探している。

山岳会に 対しては、謝ることしかできない。2年なのに、俺をほとんど見ず、自分だけの事でいい、ばいであつた。今年はさすがに周りの人間をイライラさせただろうと思うと、今できるのは謝ることだけである。すみませんでした。

廃人生活はしばらくはもういいので来年度は行動しようと思う。当たり前の事だが、やりたい事はあるのだが、山の目標と呼べる物は今はない。恐らく頭で考えてもその目標は作れないだろう。やりたい事は、果と縦走かな。

今自分が廃人生活を終わらすのにしなければいけない事は、"行動"と"考える"で、その割合は"9:1"に表わされる。

来年度はまじめに人間として生きて、周りの人間に迷惑だけはかけないように、生活、行動しようと思う。

1998年度の反省、感想

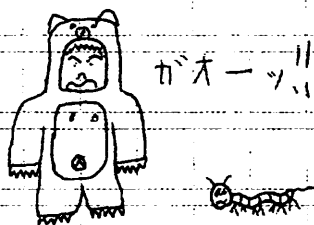
深沢遼

今年の目標として毎週末山へ入り、平日は勉強に専念するということがあった。実際は山へ行くと山に入る時間たいてい必要分の2つを多く計画を練る時間が必要なのでなかなか難しいものがあったが自分なりに山と勉強の両立ができたと思っている。そのように割り切ったせいではないかと思いたいし実際そうだったのだろうか他の地区の部員と親密な交わり合いがなかった。離れていながらしかたないことだろうがあまりにも存さずきり手まじりにしたかったのはよくなかったと思う。みんなもって伊那へこい。

一年を振り返って

自分はこの一年、何もやってきたのだろうか。この大学には山に登るために来たのだが、それに充分なだけの山もや、ただだろうか。夏合宿は不参加、冬合宿は途中下山。自分自身、この一年あまり納得したものではない。それでも自分はこの一年で肉体的、精神的にも成長した。しかし山に登りたくて山岳会に入っただけだが、いつの手にか、山岳会にいるのだから山に登らなくてはいけないという半ば義務的なものになっていったような気がする。なぜ、この大学に来たのか、なぜ山岳会に入ったのかという初心に返って来年に望みたいと思う。そして来年は上級生となるのだから、会が自分に何をしてくれるかではなく、自分が会のために何ができるかということも念頭においてやっていきたいと思う。

梶原 恵



一年を振り返り、

松野 林太郎

この一年を振り返り、見ると、山岳会が非常に大きな存在だ。山岳会に入、ために充実した生活が送れたと思う。行、山全てが思い出に残り楽しかった。

来年度からは、上級生となる。色々な面で今以上に意識を高めていかなくてはならないと思う。そして、自分の好きな山行のスタイルを見つけていかれば良いと思う。自ら進んで山行計画を立てたり、岩トレをしていきたい。

98年度の反省および99年度の抱負

98S6024H 横山勝丘

98年度、新1年生となった私は山岳会に入った。

見るもの、やることすべてが新鮮かつ楽しく、充実した1年をおくれたと思う。後半、少しペースダウンしたが、全体を通じて、
「楽しみすぎるほど楽しんだ」といってよいだろう。

それは良いことでもあり、悪いことでもある。「楽しみすぎた」結果として、基本的なことがまだまだ不十分なものもある。

これは個人の問題であることには違いないが、来年度、1年生を指導する立場からみれば「果たして！」

ということになる。しかし、私は1年生が入ってくるのが楽しみである。それは自分のためにもなるし、会のためにもなるからである。上級生として1年生に教える

ことはいろいろあるが、彼らから教えてもらうこと、
ういういしい臭もちが今ほしい。そして、私は
あえて1年生とともに、上達を目指したい。

彼らとともに、教えることは教えて、だがしかし、
彼らの中に入って修練に励みたい。そしてそれが、
会の更なる発展につながることを信じている。

今したいこと、免許とりたい、フランス語やララやバ
リたい、体やわらかくなりたい、インポーダンス300くらい
になりたいなどなど、くたがらなく思わぬでいい。山岳会
のためにも少なからず役に立つ。そう信じる。

99年、1年間で99日山に行けるだろうか。様々な方法で山を
登りたい。マイナーな所も行ってみたい。また自分の登山の
スタイルのようなものを見つけたい。今年はその探求
年でもある。そのためにも、少しでも多くの経験。
更に、経験好するためには、少しでも多くの努力と、周囲の人の
の協力が必要。今年もよろしく。



山岳会 1年目を終えて

横山 輝生

1年目を振り返ってみると、長いようで短い1年だった。

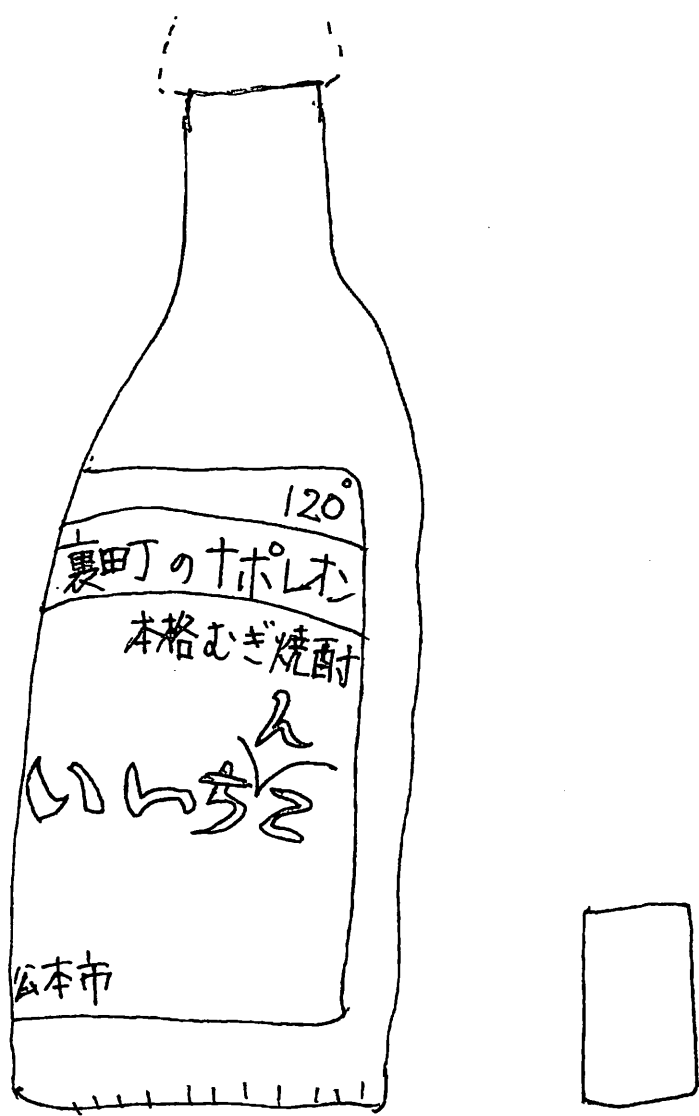
この間に、自分の中で成長を実感できたこともあれば、不利な進歩が見られず、またまたという面も多かった。

山では楽しいこともあれば、苦しいこともあり、自分にとっては何も
得体の知らない存在である。

これからは、山岳会の中での自分、というものを頭に入れつつ自分の
好きな山のスタイル、の確立を目指したいと思う。

来年は2年生になるわけで、新1年生が入ってくるわけなので、これに
負けぬよう、
努力し続けたい。





1999・Apr 信大山岳会

編集：松本

印刷：◇

発行：信大山岳会

表紙：ボンド 裏表紙：オリヅ